



全酪アカデミー卒業生

熊本で就農開始

本会と、(一社)全国酪農協会が、酪農就農や牧場従事等を志す担い手を育成し就農に結び付けることを目的に設立した一般社団法人全酪アカデミーの第1期研修生であった小久保海さん(35歳)は、アカデミーでの研修期間を終え、9月から経営主として熊本県で酪農をスタートしました。

北海道の酪農家で5人きょうだいの末っ子に生まれた小久保さんは、大学を卒業後、全酪連に入会しました。購買担当として日々の推進業務で酪農家さんと接するうちに、自分であればどのように飼育・管理をするかと考えているうちに、『自ら酪農をやりたい!』という思いが膨らみ、令和2年に全酪連が新たに事業を始めた『酪農を支える人材育成事業(全酪アカデミー事業)』の対象者となり研修をスタートさせました。研修の初年度は全酪連若齢預託熊本牧場(哺育・育成牛約500頭)にて哺育・育成の飼養管理を中心に基礎研修を行ない、2年目からは全酪アカデミーの契約農場である(株)宮本牧場(熊本県玉名市)に研修

の場を移し、搾乳や人工授精、その

他農場作業全般の実践研修を行いました。その間、全酪連の技術顧問や担当役職員が講師を務める座学研修を受講し、知識の習得も重ねてきました。

就農候補地は、小久保さんが自ら探し求めたもののほか、全酪アカデミーの賛助会員から事務局のもとに届くものも多数あり、それらの候補地となる農場を全酪アカデミー事務局とともに視察訪問し継承に関する協議を重ねました。最終的には(有)もりもと牧場(熊本県阿蘇市)を就農先と決め、株式譲渡に関する基本合意書を締結し、今年の3月から事業継承を前提として研修を行ないました。

小久保さんが継承した(有)もりもと牧場は、阿蘇山が形成した世界最

大級のカルデラ盆地の中に位置し、広大な草地を活用した粗飼料自給率100%、飼養頭数約220頭(うち、搾乳牛125頭)をフリーバーンで管理し、6頭ダブルのパラレルパーラーで搾乳を行っています。小久保さんは、この牧場の草地面積や現有施設を鑑み、『自給飼料100%が魅力でした。飼料高騰下でもなんとかやっていけるのでは。平成12年に森本さんが新たに整備してくれた牛舎やパーラー、TMRミキサーのある飼料庫などの動線もよく、この先自分が思い描いている搾乳ロボットの導入にも対応できそうです。』と、継承の理由を語っていました。継承者の森本勝義氏は『全酪連の熊本駐在の頃からお互いを良く知っていたし、人当たりもいい。



▲ 経営を委譲した森本勝義さん

小久保君が選んでくれたことは、夫婦そろって嬉しかったですね。』と目を細めていました。

今回の継承は、法人である(有)もりもと牧場のオーナーである森本夫妻が保有するすべての株式を、小久保さんが数年かけて取得するという手法で経営を引き継ぐこととし、株式譲渡については、全酪アカデミーの監事である森税理士(株)アグリビジネスソリューションズ)にご指導いただ



▲ 記念プレートを贈呈する北池理事長(左)と小久保さん

きながら協議を重ね、今年の6月には株式譲渡契約書を締結しています。経営移譲にかかる事務手続きを全て完了し、登記上、代表者が小久保さんとなった9月1日には、当牧場において全酪アカデミーの北池理事長(全酪連代表理事専務)から記念のプレートが贈呈されました。その後、場所を移し、移譲者である森本夫妻、研修先であった宮本夫妻、全酪アカデミー関係者に加え、就農までの過程で尽力していただいた全酪アカデミーの賛助会員である熊本県



▲ (有)もりもと牧場

酪連や、小久保さんが所属する大阿蘇酪農協の役職員を交え、激励会が行われました。激励会の場で北池理事長は、設立当初から賛助会員になっていただいた熊本県酪連、研修当初から組合行事に小久保さんを連れ出し地元の方々に紹介していただいた大阿蘇酪農協、研修先だった宮本夫妻、移譲者の森本夫妻に感謝を伝え、『小久保さんの酪農家になりたいという気持ちは当初から十分あったが、サポートしていただける地元組織が

あつてこそ。新たな酪農家のために、今後も地域とともに全酪アカデミー、全酪連も強力にサポートしていきたい』とあいさつしました。小久保さんは、『歴史あるもりもと牧場を引き継ぐこととしました。森本さん、宮本さん、地域の組合、アカデミーの方々、いろいろな方のご理解、ご協力があつて今日があります。そのようなつながりを大切にしていきたい。』と述べました。

全酪アカデミーは、酪農

就農を志す方々を研修生

として最長3年間雇用しま

す。研修生は給与を受けな

がら、就農支援プログラム

(教育カリキュラム)に基づ

き全酪連関連牧場や賛助会

員組合員の契約農場(酪農

家)での実践研修や、多岐

にわたる分野の座学研修を

受けることができます。北

海道から沖縄まで全国38の

賛助会員から提供される就

農候補地の中から研修生が

希望する地域とのマッチン

グをし、事業計画策定、事

業継承など賛助会員と連携

し多面的にサポートします。現在、3組6名が研修生として雇用されており、11月には2組目の就農が予定されています。小久保さんが継承した(有)もりもと牧場の今後に期待するとともに、全酪アカデミーから巣立つ多くの新規酪農家を本会もサポートしていきます。

●令和6年度研修生募集

(一社)全酪アカデミーでは、令和6年度の研修生を募集しています。

牧場で働きながら知識や技術を身に付けます。「入学金」や「授業料」などの学費は一切かかりません。現在会社にお勤めの方が退職後も安心して酪農就農を準備できる体制を整えています。

▶ 給与 月給 210,000 円～ (夫婦での採用の場合、月給 420,000 円～)

▶ 休日 4週4休 (農場研修は月 23 日程度)

▶ 借上住宅

▶ 通勤手当

▶ 有給休暇

▶ 社会保険

詳しくは、ホームページでご確認ください。

▶ <https://z-academy.org/>

YouTube で動画を公開しています。

▶ https://youtu.be/Vmy_KocOF-g



一般社団法人 Zenraku Academy

全酪アカデミー



全酪
アカデミー発

全酪アカデミー研修生 ラジオで抱負を語る

現在、日曜朝 7 時 30 分から TBS ラジオにて放送されている「石川實 DAIRY LIFE」に、(一社)全酪アカデミーで新規就農を目指して研修 1 年目の前田達也さんとヴィオリスカさん夫妻が出演し、その意込みを語りました。

当番組のパーソナリティーの石川氏は、今夏札幌にて行われた全国酪青女による「酪友フォーラム 2023」のパネルディスカッションにおいてコーディネーターを務めていただきました。懇親会まで参加いただいた石川さんは、そこで酪農就農を志す担い手を育成し就農に結び付けることを目的としている全酪アカデミーの取り組みを知り、興味を持たれ、自らの番組で取り上げていただくこととなりました。

収録で、研修生の前田達也さんは、「4 月に入職して約半年。その間、酪農は搾乳、エサやりだけでなく、繁殖管理、堆肥処理、自給粗飼料のための圃場管理など多くの作業があることを知り、改めて大変さを知りましたが、日々新鮮で楽しいです。」と話し、奥

さんのヴィオリスカさんは「牛、一頭一頭の個性が見えてきてますます可愛さを感じます」と今の心境を語りました。また、「全酪アカデミーは、就農候補地の情報を全国各地の賛助会員から収集し、その中から私達の希望に近いところを提案してくれています。私たち自らが探す必要はなく、その分、研修に集中できます。その点が非常に安心であり、ありがたいです。」と、2 年目の研修地に向けて既に準備を始めています。

番組には、全酪アカデミーの坂本事務局長も出演し、「毎年、数百戸の酪農家が離農しています。それに対し、新規就農は全国でおおよそ 30 戸です。酪農家になりたい！という非農家の若者が、実際に酪農家になれる仕組みを確立したい。全国の全酪アカデミー賛助会員、特別会員そして酪農業界が一体となり、全国に酪農家を誕生させる事業に発展させていきたい。」と抱負を熱く語りました。

なお、この模様は、10 月 29 日から 2 週にわたり放送される予定です。ぜひお聞きください。(I.M)

石川實 DAIRY LIFE



【番組 HP より】

この番組は酪農家の想いをラジオパーソナリティーの石川實が形にする番組です。暮らしに欠かせない食べ物やエネルギーは、いったいどこから来ているのだろう…どんな人が、どんな想いで作っているのだろう…東京を中心にした都市で生活している私たちがつい忘れが

→ <https://www.tbsradio.jp/milk/>



ちな、大事なこと。その中でも、日常の生活と牛乳・乳製品をテーマに石川實の視点で世界を伝えるのがこの番組です。都市に生活していても自然の恵みと生産者の想いを身近に感じる暮らしを“選択”してステキな物語に溢れた暮らしをしよう…そんな提案を番組を通じて伝えていきたいと思っています。



▲ (前列右から) 研修生の前田ヴィオリスカさん、達也さん夫妻、
(後列左から) 石川實氏、坂本事務局長、板倉事務局長